消防活動事業

1. 現況

社会情勢の急激な変化や生活様式が多様化し、さらに高齢化の進展に伴い、各種災害も同様に複雑化・多様化するとともに、大規模化の傾向にあり、市民の生命・身体・財産を守るため、迅速かつ柔軟な災害対応を行った。

(1) 火災出動件数及び損害額内訳

(単位：千円)

出動種別	建物火災	車両火災	林野火災	その他火災	合計
件数	8	3		2	13
損害額	1,674	619		9	2,302

(2) 救急出動件数

種別	事故種別													合計	
	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				
											転院搬送	医師搬送	資材搬送		その他
出動件数	9		2	414	33	17	864	24	51	3,174	312			50	4,950
搬送人員	1			400	32	17	753	26	24	2,803	311			1	4,368

(3) 救助出動件数

種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害	機械による事故	建物等による事故	ガス欠及び事故	爆発事故	その他の事故	合計
出動件数	5	13	2		1	11			11	43
活動件数	5	3			1	4			9	22

2. 消防

年々多様化する火災現場に対応できるよう、車両及び資機材等に関する備品、消耗品を整備し、迅速な消火活動が実施できるよう努めた。また、大阪府下の消防本部が一堂に会する警防技術錬成会にも積極的に参加し、有事の際、効率的な消火活動の向上に努めた。

3. 救急

年々増加傾向にある救急需要に適切に対応するため、応急処置用消耗品や応急手当普及啓発用消耗品の補充に努めた。また、救急救命士の処置拡大に伴い、必要資機材の整備に努めた。南河内メディカルコントロール協議会により、救急隊員の活動に対し医学的な見地で検証を受け、その結果を全救急隊員へフィードバックし、救急活動能力の維持、向上を図った。

4. 救助

複雑・多様化する救助事案に適切に対応するため、救助消耗品や訓練用消耗品の補充に努めた。また、近年増加する登山者が山岳で負傷した場合に、より迅速で確実かつ安全な救助活動ができるように、山岳等救助資機材の整備を図った。